

幼稚園園舎解体に伴い配布される記念物



市の認定こども園設置計画に伴い近々行われる旧日吉台幼稚園園舎解体工事で、日吉台の教育を語る会(中野義勝委員長)は、解体工事に関する地元要望をまとめ、学区自治連合会(丸山郁夫会長)と連名で、越直美大津市長に要望書を提出する。

認定こども園設置計画について、同会は平成29年10月、こども園運営事業者選定に関し地元要望を市に提出しており、こども園問題で市への要請は今回が2回目。市によると、老朽化している日吉台幼稚園園舎を解体したうえ、敷地を

旧日吉台幼稚園園舎解体工事に伴い、学区自治連合会と日吉台の教育を語る会は、同園園舎内の記念物を希望者に配布することを決め、希望者を公募する。同会などが園舎解体に当たって大津市と協議、配布を決めた。配布するのは、フェンスにある①

「ひよしだいようちえん」木製看板▽②遊戯室入り口の95年度修了記念プレート▽③玄関正面の96年度修了記念プレート▽④玄関正面の97年度修了記念プレート▽⑤玄関正面も右裏側の98年度修了記念プレート。希望者は住所、氏名、電話番号、希望物品の番

後を任意の用紙に記入し日吉台市民センターまで。締め切りは6月10日。申し込み多数の場合は抽選。現物写真は、回覧またはホームページに掲載する。問い合わせは市民センター(579-4518)か、語る会の中野委員長(579-6002)まで。

月から7月にかけて市内36学区で、「市民センター説明会を順次開催することとしている。説明会は、市民センター機能等の見直しイメージやスケジュール、実施案の内容を市側が説明、質疑応答なども行われ、日吉台学区では6月30日午後3時、日吉台市民センターで開催を予定している。市では、市内36カ所の支所を集約、統合するなどとした市民センター機能等あり方検討の素案を公表したが、各学区からの強い反対を受け今年2月、素案を見直す実施案を公表した。

支所を10カ所に集約、他は廃止するとしていたが、見直した実施案では2024年度まで市内全支所を存続させ、職員も配置するという内容。日吉台支所も当初廃止対象だったが、今回の実施案では、支所は当面残るが戸籍簿、抄本等の各種証明書発行、戸籍、住民基本台帳の届け出、市税に関する届け出、公共料金の取り扱いの廃止となるなど、職員の削減や窓口業務の見直し、窓口業務時間の短縮などの住民負担を求めている。見直し実施案についても疑問の声があがっている。

幼稚園記念物を配布 希望者は申し込みを

公募で決定した認定こども園運営事業者に貸与。予定通り事業者が決まれば令和3年4月、日吉台幼稚園跡地に民間による認定こども園が開設される予定となっている。旧園舎については、すでに市によるアスベスト含有調査などが行われ、今年8月ごろから半年間かけ

て解体工事の予定。要望によると、工事が行われる日吉台幼稚園は、日吉台小学校に隣接し日吉台学区住宅地の中心地にあることから、小学校児童と周辺住民の安全と騒音、振動対策に万全を期するよう求め、解体工事は、日曜日を休み、土曜日についても原則休み

市民センター機能のあり方検討で、大津市は6月30日午後3時、市民センターで

月から7月にかけて市内36学区で、「市民センター説明会を順次開催することとしている。説明会は、市民センター機能等の見直しイメージやスケジュール、実施案の内容を市側が説明、質疑応答なども行われ、日吉台学区では6月30日午後3時、日吉台市民センターで開催を予定している。市では、市内36カ所の支所を集約、統合するなどとした市民センター機能等あり方検討の素案を公表したが、各学区からの強い反対を受け今年2月、素案を見直す実施案を公表した。

支所を10カ所に集約、他は廃止するとしていたが、見直した実施案では2024年度まで市内全支所を存続させ、職員も配置するという内容。日吉台支所も当初廃止対象だったが、今回の実施案では、支所は当面残るが戸籍簿、抄本等の各種証明書発行、戸籍、住民基本台帳の届け出、市税に関する届け出、公共料金の取り扱いの廃止となるなど、職員の削減や窓口業務の見直し、窓口業務時間の短縮などの住民負担を求めている。見直し実施案についても疑問の声があがっている。

幼稚園解体工事で地元要望 安全、騒音対策等に万全期せ

認定こども園

とし、工事時間は午前8時半〜午後5時を原則とする。工事車両の通行については、バス通りを使用、運行は小学生児童が登校した午前8時半以降とする。一昨年度の認定こども園設置事業者選定の要望では、日吉台小との幼小交流の連携▽地域団体と

の連携▽こども園開設事業者による開設計画、運営計画などの情報公開▽関係自治会や住民、保護者らの運営上の諸問題等の解決策を求めている。が、今回、再確認のためあらためて要望書に明記したうえで、こども園開設後の父母らの送迎経路について園舎前の南行き右折禁止をつけ加えた。同会は、工事事業者やこども園開設事業者らに地元要望を十分伝え、受け入れてもらえるよう市が十分働きかけるよう求めている。

この防犯教室は午前10時40分から開催。同推進会の会員らが寸劇などを行い、子どもたちに防犯活動の大切さを訴える。



HIYOSHIDAI
発行
日吉台学区 まちづくり協議会
発行責任者 林 堅太郎
編集責任者 野々口 義信



日吉台小で防犯教室
7月4日開催
学区自主防犯推進会 (山下英子会長) は7月4日、日吉台小体育館で、同小児童らが誘拐にあわなないための防犯教室を開催する。

市民センター機能で住民説明会

6月30日午後3時、市民センターで

日吉台学区まちづくり協議会(林堅太郎会長)は6月30日の午後1時半、市民センターで、令和元年度総会を開催する。平成30年度の活動を報告するとともに、現状の課題と今後の方針について議論を行う。平成30年度は、新たに文化事業部を発足、日吉台コンサートなど各種文化イベントを主催し、好調な滑り出しをみせてきている。現在まちづくり協議会は、学区自治連合会との特別委員会として活動を続けていくが、今年度からまち協を自治連合会の特別委員会の組織と改組、商店街との協力関係の構築など、従来のまちづくりをさらに活性化させるため各種の提案が予定されている。参加自由。

学区まち協総会開催

6月30日市民センターで

玄関灯・門灯 点灯にご協力ください!

- ・ 帰宅時も明るくて安心
- ・ 泥棒に狙われにくい街づくり

電気代は、LED電球(40W電球相当)の場合1か月60円程度、20W蛍光灯の場合1か月140円程度です。

困ります! そのオシッコ!!

マナーを守りましょう!

犬のトイレは適切な場所で!
※ 犬の散歩の際は、フン尿の始末ができる用意(ビニール袋、水入りペットボトル)をしましょう。

大津市動物愛護センター



黄色い帽子をかぶり登下校する日吉台小の新1年生

日吉台小児童へプレゼント

通学の安全願い新1年生に黄色い帽子 社協

日吉台学区社会福祉協議会と同民生委員・児童委員協議会（いずれも呉屋之保会長）は、日吉台小新1年生22人の子どもたちに登、下校時の安全を守る「黄色い帽子」を購入、贈った。

この黄色い帽子は、県市町村交通共済組合が、毎年年度初めに大津市内小学校新入学児全員に寄贈。日吉台小でも新入生が1年間、黄色い帽子を着用し、下校をしてきた。しかし、同組合の黄色い帽子の寄贈が今年度から取り止めに。登、下校時、1年生児童と他学年との児童と区別がつかない状況になる恐れが出ていた。

年度当初、同小コミュニティスクール運営協議会で、この問題を協議、新1年生の安全通学のため、黄色い防着を着用を継続させることを決定したが、購入予算の捻出に苦慮。各方面で寄贈先を捜していたところ、学区社協と民児協が寄贈を申し出、今年度も継続して着用することが決まった。

黄色い帽子は男子用が760円、女子用880円。5月13日に新1年生に配布され、子どもたちは、真新しい黄色い帽子をかぶって元気に登下校している。

日吉台へ視察相次ぐ

奈良・王寺町、和歌山・由良町一行



学区自治連が進める空き家対策やまちづくり事業について日吉台に各地から視察研修が相次いでいる。5月12日には、奈

良県・王寺町自治連合会（平井康之町長、井村知次会長一行32人）、5月16日には和歌山県・由良町区長会（中田邦城会長一行12人）が来訪、日吉台学区の空き家対策事業や学区まちづくり事業についてそれぞれ研修した。両町とも日吉台市民センターで研修を実施。王寺町の研修は、学区まちづくり協議会（林堅太郎会長）の事業の視察研修

ジャンピングボードで遊ぶ日吉台小児童



縄跳び上手に 住民が手造りジャンピングボード

学区住民がこのほど、縄跳びが上手に飛べるようになる道具、ジャンピングボードを手造りで製作、日吉台小（熊川芳彦校長）の子どもたちにプレゼントした。

ジャンピングボードは、大きな角材をはさむように2枚の畳の厚い合板を設置、合板の空間にはスプリングがあり、ジャンプ力が強化されている。板の真ん中あたりでジャンプすると、ひざが曲がらず、軽やかに跳躍する癖が自然につき、二重跳び系の技が楽にできるようになるという。

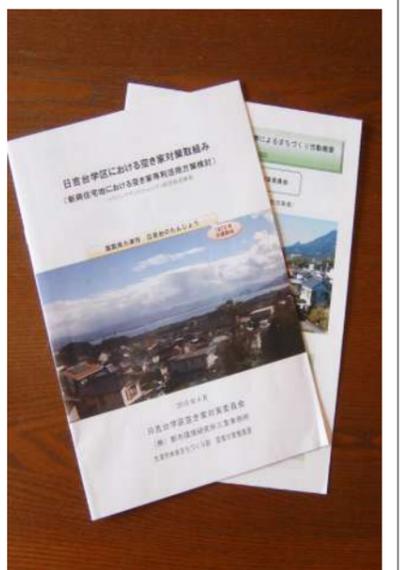
同小には、以前のジャンピングボードが備えられていたが、老朽化して廃棄されていた。今年2月に行われた同小コミュニティスクールの会合で、子どもたちの体力づくりに設置の話が出、同小体育施設開放委員会事業の一環として、自主防犯推進会委員の1南、延興彰文、4西、岩本敏和、3西、岸本善春の3氏が手造りで製作、寄贈した。

で、由良町は、空き家対策事業がテーマの研修。まち協の村澤真保事務局長と、学区空き家対策委員会の濱崎博事務局長がともにプロジェクトを使って説明。両町の参加者らは熱心にメモをとりながら耳を傾け、王寺町の視察団一行は、市民センターでの座学のあと、学区内を徒歩で巡回、学区内の空き家住宅などを实地に見学、視察もした。

空き家対策委が報告書等発行 活動の集大成まとめる

学区空き家対策委員会は、空き家対策事業の活動をまとめた報告書「日吉台学区における空き家対策取り組み」と活動PRリーフレット「空き家

を資産として活用する団塊世代によるまちづくり活動概要」を発行、大津市や関係団体などに配布した。写真。



学区空き家対策委員会は、報告書はカラー印刷A4判24頁、リーフレットは同8頁。報告書では、はじめに「日吉台の沿革、空き家対策の取り組みの経緯」を解説したのち、「空き家等外観調査」「空き家等所有者意向調査」「学区住民意識調査」などを掲載、現空き家所有者に空き家の管理状況や将来の利活用策を尋ねた調査結果をまとめ、空き家抑制策の方向性を探るため現在日吉台に住む住民に対する意向調査結果も記述した。

取り組んできた活動状況をまとめたもの。



空き家を視察する王寺町の一行

このほか報告書では、日吉台のまちづくりの課題や今後の空き家利活用策の検討、方策などを展望しているほか、実際に取り組んだ「空き家見守り活動」や「ずっと、もっとと住み続けたい」まち日吉台の懇談会、勉強会などの活動をわかりやすく紹介している。

リーフレットは、報告書にも紹介してある「空き家見守り隊」の実践活動状況や「住まいの相談窓口」開設など具体的な取り組みを掲載、活動をPRしている。